

# 地震

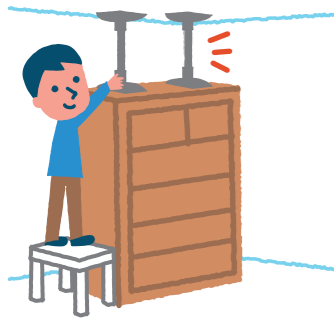
関連 WEBサイト  
 気象庁 気象警報・注意報  
 気象庁 地震情報

## 家の中の地震対策について

地震発生時に家具の転倒などによってケガをしたり逃げ道をふさがれないよう、地震対策を行いましょう。

### ●家具の固定・転落防止

タンス、食器棚や本棚は、L字型金具やつっぱり棒で固定しましょう。



テレビはできるだけ低い位置に置き、すべり止めや転落防止バンドで固定しましょう。



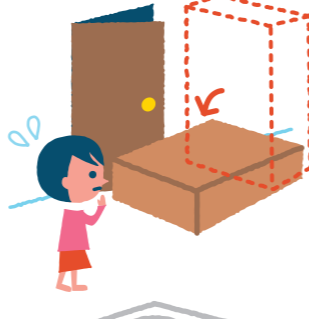
### ●ガラスの飛散防止

窓ガラスや棚のガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。



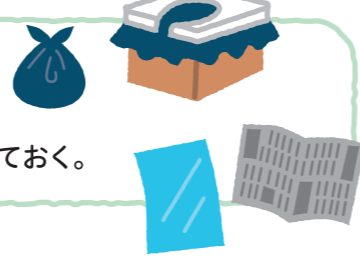
### ●通路の確保

部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。



## トイレが使えない場合の対応策

- 簡易トイレや携帯トイレを使用する（保管場所・ゴミ出しのルールを決めておく）。
- 簡易トイレの代わりとして、ビニール袋や新聞紙、消臭スプレー、重曹なども用意しておく。



## マンション特有の注意点

マンションでは、建物の構造や多くの人たちが一緒に生活しているという生活環境の特徴から、戸建て住宅とは異なる防災対策が必要となります。

### ●通路・非常口・非常階段

通路・非常口・非常階段などの共用部分に通行の妨げになるようなものを置かないようにしましょう。

また、一斉に階段を使用すると二次災害になるおそれがあるので、注意して使用しましょう。



### ●エレベーターの停止

エレベーターが長時間停止した場合は、階段でしか移動できなくなります。

高層階に住む人ほど、移動や水・食料などの運搬が困難になるので、平常時から多めに用意しておきましょう。



### ●ベランダ

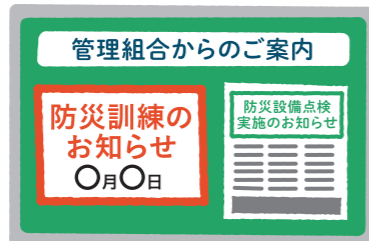
ベランダの避難ハッチ（非常脱出口）の使用方法を確認しておきましょう。

また、ハッチをふさぐようなものは置かないようにしましょう。



### ●管理組合からの連絡

防災設備の点検や防災訓練のお知らせなど、管理組合からの連絡には日頃から注意しましょう。



### ●トイレ・ゴミの問題

配管・配水管が破損すると、トイレを使うことができません。高層階に住む人ほど、不便が大きくなります。

また、災害用の携帯トイレなどを使う際には、ゴミの問題とあわせて悪臭など衛生面の問題が発生します。



# 地震発生時のタイムライン

## 地震発生

### まずは自分の身を守る

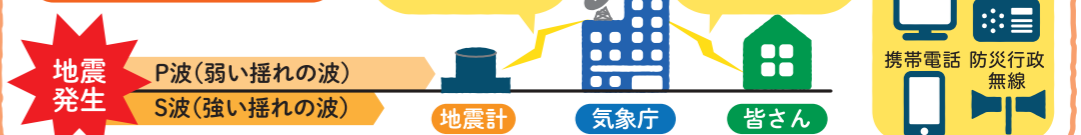
- 机の下に入る。 ●家具やガラス面から離れる。
- クッションや雑誌などで頭を保護する。



### 緊急地震速報

震源に近い観測点で地震を察知し、直ちに震源や地震の規模（マグニチュード）などを推定し、大きな揺れが始まる数秒前から数十秒前にお知らせするシステムです。情報が出たら、身を守ることを第一に、どのような行動がとれるか、日頃から話し合っておきましょう。

#### 緊急地震速報の流れ



### ここがポイント! こんなときは

- 人が大勢いる施設では  
むやみに移動すると混乱をまねく恐れがあるため係員の指示に従い、落ち着いて行動。
- 山やがけ付近では  
落石やがけ崩れに注意。
- 路上にいた!  
窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。  
**注意** ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。
- 車を運転していた!  
徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れがおさまるまで冷静に、カーラジオなどで情報収集。  
**注意** 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。
- エレベーターの中にいた!  
すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。  
**注意** 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。

発生から 1~2分  
 発生から 3分  
 発生から 5分  
 発生から 10分~

### 揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。 ●火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。 ●靴をはく。



### 隣近所の安全確認

- 隣近所に声をかける。 ●近所に火が出ていたら初期消火。
- 余震に注意。 ●非常持出品を用意する。



### ラジオなどで正しい情報を入手

- 正しい情報をつかむ。 ●緊急連絡を優先。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難。



⇒避難場所へ避難 63ページをチェック

### 協力して消火・救出・救護活動

- 助け合いの心が大切。 ●水・食料は蓄えているもので。
- 壊れた家には入らない。 ●災害情報・被害情報の収集を行い、デマ情報にまどわされない。



水害・土砂災害  
 ハザードマップの見方  
 避難所一覧・防災情報の入手方法  
 水害・土砂災害ハザードマップ  
 計画規模(L1)  
 水害・土砂災害ハザードマップ  
 想定最大規模(L2)  
 日頃の備え  
 水害  
 土砂災害  
 地震

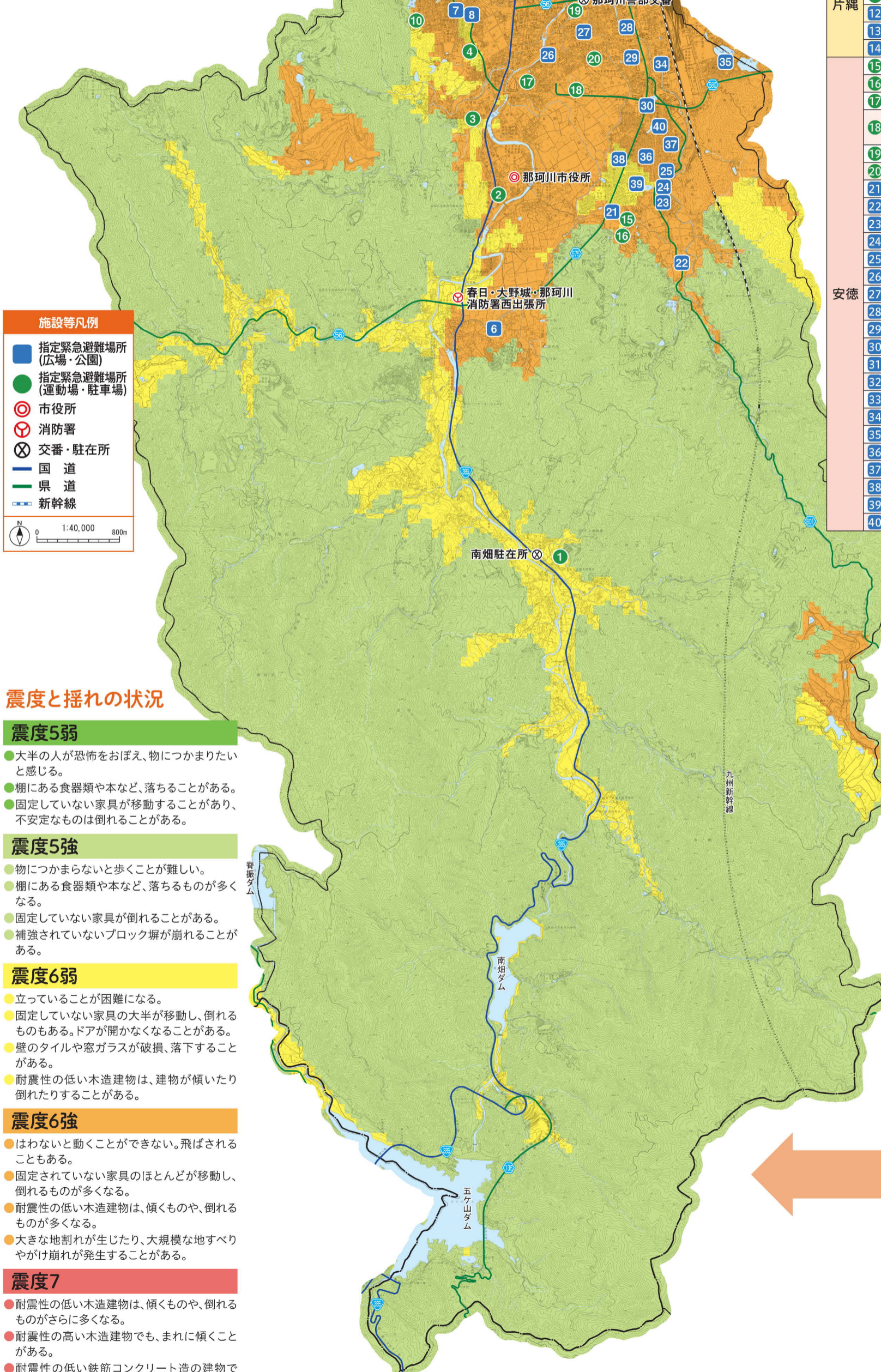


# 地震ハザードマップ(揺れやすさマップ)

揺れやすさマップは、那珂川市に影響を与える地震が発生した場合に、どのくらいの震度が予想されるかを地図上に示したものです。

このマップでは、

- ① 警固断層を震源とする地震、
  - ② どこでも起こりうる直下の地震、
- の計測震度を重ね合わせ、最大となる震度を示しています。



**施設等凡例**

- 指定緊急避難場所 (広場・公園)
- 指定緊急避難場所 (運動場・駐車場)
- 市役所
- 消防署
- 交番・駐在所
- 国道
- 県道
- 新幹線

Scale: 1:40,000

## 震度と揺れの状況

- 震度5弱**
- 大半の人が恐怖をおぼえ、物につかまりたいと感じる。
  - 棚にある食器類や本など、落ちることがある。
  - 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
- 震度5強**
- 物につかまらなると歩くことが難しい。
  - 棚にある食器類や本など、落ちるものが増える。
  - 固定していない家具が倒れることがある。
  - 補強されていないブロック塀が崩れることがある。
- 震度6弱**
- 立っていることが困難になる。
  - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
  - 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
  - 耐震性の低い木造建物は、建物が傾いたり倒れたりすることがある。
- 震度6強**
- はわなと動くことができない。飛ばされることもある。
  - 固定されていない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
  - 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
  - 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりやがけ崩れが発生することがある。
- 震度7**
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
  - 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
  - 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

## 避難場所一覧(地震時)

地区	名称	住所
南畑	1 南畑小学校 運動場	埋金530-1
	2 岩戸小学校 運動場	西隈2-6-43
岩戸	3 中央公民館 駐車場	後野1-5-1
	4 市民体育館 駐車場	恵子4-1-1
	5 岩戸北小学校 運動場	恵子1-1-1
	6 裂田溝公園	山田540
	7 恵子中央公園	恵子4-210-1
	8 恵子東公園	恵子2-59-12
	9 片縄小学校 運動場	片縄北1-15-1
	10 那珂川北中学校 運動場	片縄西3-26-1
片縄	11 福岡女子商業高校 運動場	片縄北1-4-1
	12 岩戸公園	片縄3-117
	13 下片縄公園	片縄東1-559-1
	14 今池公園	片縄北8-710-2
安徳	15 安徳南小学校 運動場	上梶原1-1-1
	16 那珂川南中学校 運動場	上梶原1-2-1
	17 那珂川中学校 運動場	仲3-19-1
	18 ミリカローデン那珂川 駐車場	仲2-5-1
	19 安徳北小学校 運動場	五郎丸1-11
	20 安徳小学校 運動場	松木2-134
	21 梶原運動広場	上梶原1-318-1
	22 上梶原第一公園	上梶原733-3
	23 下梶原公園	下梶原2-365-1
	24 安徳南公園	下梶原2-323-1
	25 大戸公園	下梶原2-303-28
	26 仲公園	仲1-149
	27 春田公園	五郎丸1-168
	28 前田公園	松木1-211
	29 大町公園	松木2-232
	30 松木西公園	松木5-467-10
31 安徳公園	今光4-168	
32 鷹取公園	今光3-259	
33 野入公園	中原2-167	
34 中原公園	中原5-105	
35 観晴が丘公園	観晴が丘129	
36 王塚台中央公園	王塚台2-135	
37 王塚台東公園	王塚台1-179	
38 王塚台西公園	王塚台3-82	
39 王塚台南公園	王塚台2-346	
40 王塚台北公園	王塚台1-82	

**1 警固断層を震源とする地震**

この地震の想定マグニチュード **7.2**

那珂川市で想定される震度 **震度5弱~7**

---

**2 どこでも起こりうる直下の地震**

この地震の想定マグニチュード **6.9**

那珂川市で想定される震度 **震度5強~6弱**

① ② のシミュレーション結果を重ね合わせて最大の震度を表示



# 地震ハザードマップ(危険度マップ)

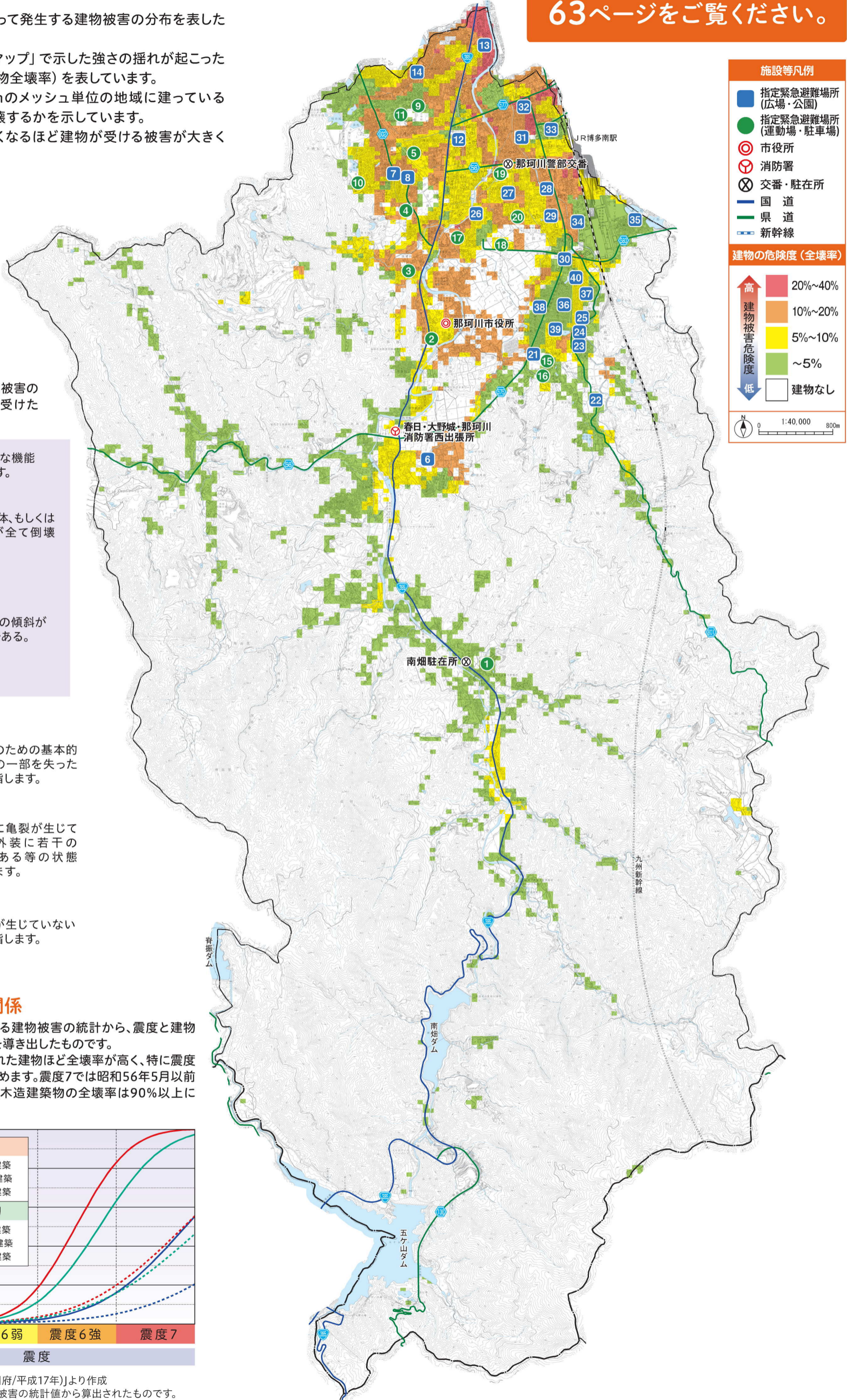
避難場所一覧(地震時)は、**63ページ**をご覧ください。

危険度マップは、地震によって発生する建物被害の分布を表したものです。

具体的には、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れが起こった場合の、建物被害の程度(建物全壊率)を表しています。

建物全壊率は、1辺約50mのメッシュ単位の地域に建っている建物の中で何%の建物が全壊するかを示しています。

建物全壊率の数値が大きくなるほど建物が受ける被害が大きくなります。



**施設等凡例**

- 指定緊急避難場所(広場・公園)
- 指定緊急避難場所(運動場・駐車場)
- 市役所
- 消防署
- 交番・駐在所
- 国道
- 県道
- 新幹線

**建物の危険度(全壊率)**

高  
↑  
建物被害危険度  
↓  
低

- 20%~40%
- 10%~20%
- 5%~10%
- ~5%
- 建物なし

0 1:40,000 800m

## 「全壊」とは

全壊とは、自然災害による建物被害の程度の中で、最も大きく被害を受けた状態を示します。

**全壊** 居住のための基本的な機能を失った状態を指します。



住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している。



外壁や柱の傾斜が1/20以上である。

## 半壊



居住のための基本的な機能の一部を失った状態を指します。

## 一部損壊



壁面に亀裂が生じている、外装に若干の剥離がある等の状態を指します。

## 無被害

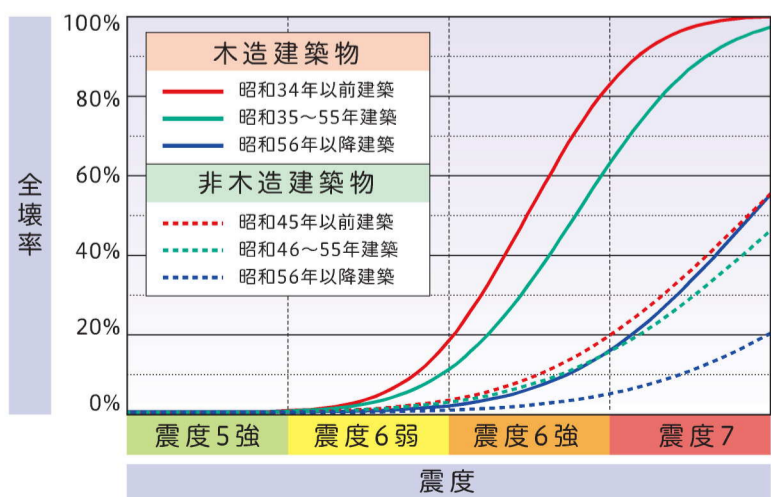


被害が生じていない状態を指します。

## 震度と建物全壊率の関係

下のグラフは過去の地震による建物被害の統計から、震度と建物(構造・年代別)の全壊率の関係を導き出したものです。

古い耐震基準をもとに建てられた建物ほど全壊率が高く、特に震度6弱~6強から急激に高くなり始めます。震度7では昭和56年5月以前の旧耐震基準により建てられた木造建築物の全壊率は90%以上になると想定されます。



※「地震防災マップ作成技術資料(内閣府/平成17年)」より作成  
 ※このグラフは過去の地震による建物被害の統計値から算出されたものです。  
 個々の建物の耐震性を建築年で一律に評価するものではありません。